

株式会社森川ゲージ製作所

香川県木田郡三木町

はばたく中小企業・小規模事業者300社

生産性向上

需要獲得

担い手確保

ものづくり

サービス

協働ロボットの積極的導入で大幅な生産性向上と技能者育成の仕組みづくりを推進

祖業であるゲージの製造で培った精密仕上げ技術をベースに流体力学の知識を加え、現在は建築機械用油圧バルブの設計・製造や船用ディーゼルエンジン機器の製造を主業としている。たゆまぬ技術レベル向上と技能者育成に全社をあげて取り組んできた結果、多くの技術技能者を輩出し、コア技術のラッピング仕上げ（鏡面仕上げ）では中四国エリアにおいて他社の追随を許さないレベルにある。理念型経営を標榜する3代目社長のもと、更なる技術の追求、挑戦を続けている。

●所在地 香川県木田郡三木町氷上620

●電話/FAX 087-898-1151/087-898-1959

●URL <https://www.mg-w.co.jp/>

●代表者 代表取締役 森川 正英

●設立 1955年

●資本金 2,400万円

●従業員数 52人



協働ロボットの多工程活用で大幅な生産性向上を実現

安全柵が不要な協働ロボットを導入し、昼間は従来通り熟練者による難加工を行いながら、夜間・休日はロボットでのワーク脱着により量産型ワークの連続運転を行うことで、熟練者が付加価値の高い加工に専念しやすい環境づくりを行った。更に、安全柵の必要のない協働ロボットならではの機能を活用し、昼間、協働ロボットには組立て工程のネック作業であるバリ取り業務を行わせることで、ボトルネック解消による大幅な生産性向上につながっている。



新設備導入（協働ロボット）

製造情報管理ソフトの導入で製造データ一元管理

これまで製造現場では、図面、治具や工具、作業マニュアル、検査記録書、製作指示書などの情報が紙ベースで管理され、それぞれが紐づいていない管理状況であることが製造現場管理における課題となっていた。この課題を解決すべく製造情報管理ソフトを導入し、これらの関連情報を一元管理することにより、情報検索や更新情報の差し替え作業が圧倒的に短縮できた。同時に、ソフト上でデータ管理が可能となり、各所の保管ファイルも減らすことができたことで大幅な業務効率化を実現している。



段取り短縮プロジェクト実施風景

人材不足時代に適応した技術者育成の仕組みづくり

協働ロボットを多工程でうまく活用することで、熟練技能者が熟練技能者にしかできない付加価値の高い業務に専念できる環境を生みだし、更なる人材の多能化を推進している。また、熟練技能者の作業時間を短縮することができるため、経験の浅い若手作業員に対する技術指導や教育訓練の時間を創出することが可能となった。無人化・自動化技術を積極的に導入し、働き方改革、人手不足時代に適応した技術者育成の仕組みづくりにも同時並行して取り組んでいる。



教育訓練風景

生産性向上

ものづくり